

平成26年度 学校関係者評価

学校自己評価システムシート (熊谷市立石原小学校)

指す学校 像	「夢と希望を育み 感動のある石原小学校」 人間性豊かで自己開発を目指す心身共に健康な児童の育成
-----------	---

重点目標	1 個々の体力の向上を図り、望ましい集団を育成し運動の習慣化と共に安全な学校づくりを図る。 2 学習内容を押さえ「わかる授業」を展開し、「確かな学力」の定着・向上と学習の意欲化を図る。 3 基本的な生活習慣の確立と共に、お互いに認め合う豊かな人間関係づくりに努める。 4 家庭と地域との連携を深め、開かれた学校づくりをめざし、期待と信頼に応える教育を推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (9割以上)
	B	概ね達成 (8割以上)
	C	変化の兆し (6割以上)
	D	不十分 (6割未満)

出席者	学校関係者	3名
	事務局(教職員)	3名

学校自己評価					年度評価 (2月26日現在)		
年度目標					年度評価 (2月26日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 体力の全体の平均は県を上回っている種目が多いが、運動面に関して2極化が見られる。個々の体力向上が課題で自ら取り組めるように工夫したい。 交通事故0の推進、防止の徹底 大規模災害に備えた体制整備 	基礎体力の向上 交通事故防止 危機管理の徹底	①一人一人の子どもに新体力テストの結果から体力向上のめあて(目標)をもたせる。 ②縦割り活動を計画実施する。 ③交通事故防止のための指導の徹底と交通安全意識の高揚を図る。(交通安全事故防止強化週間や自転車免許制度実施) ④大災害に備えた避難訓練や家庭との連携マニュアルの周知	①児童に体力の目標をもたせ、家庭との連携を図れたか。体力貯筋の活用。 ②めあて達成に向け、児童に適切な支援・援助、具体的な取組ができたか。 ③交通事故防止に関する安全への高揚が児童・保護者に図れたか。ヘルメット着用児童の増加。 ④整然とした避難訓練が実施できたか。	①新体力テストのデータを配布した。家庭との連携のための「体力貯筋通帳」を作成活用してきた。 ②掲示板を利用して効率化を図ることにより、充実した取組ができた。 ③朝会等で呼びかけたことにより、事故が減少した。ヘルメットの着用児童は昨年並み。 ④年間に6回の避難訓練を実施し、児童が整然として避難できた。今年度、新たに小中合同登校訓練や竜巻を想定した避難訓練を実施。	A B A	○共通指導内容が徹底されているか児童へアンケート調査する。 ○校内での秩序を登下校時でもできるように、強化期間を設け、児童に意識づける。 ○ヘルメット着用の啓発をPTAと連携し繰り返し行う。 ○家庭で被災した場合に学んだことが生きるように、マニュアルを見直し、様々な避難の方法や対応を保護者と共有する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 学力の個人差が大きく基礎基本の学力が身につけていない児童もいる。 読書については、比較的良く取り組まれているが、家庭学習の習慣が身につけていない児童も多い。 	学習の基礎基本の定着 読書活動の推進	①児童の実態を把握し、実態にあった年間指導計画を整備する。 ②1単位時間の学習内容を明確にした授業を展開・計算の定着を図る。 ③学習規律の徹底を図る。特に、姿勢・鉛筆の持ち方や学習の約束を徹底する。 ④学級文庫の充実を図る。 ⑤板書計画を立て工夫改善し、ノート指導の徹底する。	①計画的に職員研修を進め、児童の実態を踏まえた実践を行い、年間指導計画が改善されたか。 ②毎時間の学習内容の定着を意識した取組が、各授業で展開されたか。 ③学習規律の徹底と繰り返して姿勢や鉛筆の指導ができたか。 ④学級文庫の整備充実が図れたか各家庭の寄贈の状況。 ⑤ノート指導の共通確認事項が実践できたか。	①全員で年間指導計画を見直し、発達段階に即した計画となっている。 ②授業を担当している教諭が年間に1度は授業を公開した。3つの達成目標・計算の達成率98.75%。読む書く98.57%。 ③1年生の指導を徹底した。 ④図書室から教室へ本を移動する等整備が進んでいる。 ⑤共通したノート指導を実践	A B	○計画が活用されるようにするため、担当を分担し、適時朱入れを行うようにする。 ○補充学習の充実を図るため、再評価テストを見直し、補充学習が授業で行えるようにする。 ○来年度も又、各家庭へ呼びかけ協力を依頼する。 ○引き続き学習の約束等石原小の約束を徹底し6年間を見通した指導を行う。
3	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀正しくけじめのある生活ができている児童が多いが、検証結果から、 ○低学年：ありがとう・ごめんなさいを言うや、整理整頓が非常に低い。(後始末) ○中学年：授業前の学習用具の準備(約束きまり) ○高学年：先生や友だちの話をしっかり聞き発表する。 	基本的な生活習慣の定着 豊かな心の育成	①道徳授業の学習内容の配信と家庭と共有する工夫を図る。授業参観で、道徳授業公開。 ②障害のある児童の理解と自己表現の支援を図る。人権週間の効果的指導。(人権擁護委員の活用) ③「返事 あいさつ 後始末」の徹底を図る。 ④熊谷市4つの実践・3減運動の啓発を図り、保護者の協力を得る。(強化週間設置)	①道徳の授業を35時間以上実施できたか。 ②道徳授業の授業参観での公開、互いに認め合う人間関係づくりの指導・支援ができたか。 ③人権意識が高まったか。 ④「返事・あいさつ・後始末」の約束や決まり事を守らせることができたか。 ⑤4つの実践と3減運動の具体的な取組により、児童の自覚が高まったか。	①計画通り実施できている。 ②授業参観で公開し、内容について家庭に知らせた。 ③「石原小いじめ撲滅宣言」をし、また月ごとにいじめアンケートを行い、早期発見・対応・指導 する中で人権意識の高揚を図った。 ④おおむね良好。 ⑤年間2回家庭と連携し、強化週間を設定し取り組めた。	A B	○「私たちの道徳」を活用するなど、さらに道徳実践力の見える化を推進する。 ○アンケートに加え、保護者の教育相談を各月毎に位置づけ、保護者からの情報も得ていく。 ○あいさつが課題である。 ○来年度も、強化週間を設定し実践していく。4つの実践について啓発を図る。年末年始は避けたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 学級懇談の出席率向上のための継続的な工夫と改善。 学校のホームページ等から情報をタイムリーに発信すると共に、学校だよりや学校応援団だよりを自治会へ回覧する事によって地域に広く配信していく。 	保護者・地域住民等との連携 学校応援団の活用	①学級懇談を全校で一斉に開催し、参加率と懇談会の出席率を増やす。 ②HP、学校だより等による情報配信を活性化する。 ③学校行事の積極的な公開とアンケートを実施する。 ④文教地区としての施設の積極的な活用と学校応援団の地域人材の活用と交流を図る。	①全校一斉授業の内容の充実を図る。 ②HPのアクセス数を把握する。 ③PTA理事会時の校内巡視やアンケート調査を実施しフィードバックする。 ④学校応援団の人材活用が積極的にでき、成果は上がったか。	①交通安全学習、石原小の約束の共通確認、大原中・熊高合唱部による合唱、おもしろ実験を実施した。 ②タイムリーに更新した。更新回数もかなり増えた。 ③定期理事会にて実施し、意見を参考に改善すべきもの等早い対応ができた。 ④元オリンピック選手・国体陸上選手による走り方教室を実施した。	B A	○参加率は横ばいである。さらに参加を呼びかけ、懇談会の出席者を増やしたい。 ○PTA理事会時に、アンケートの結果報告と、取組を説明する。 ○新たな体験学習を計画していく。(農作業体験等)

学校関係者評価		
実施日	平成27年2月26日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<ul style="list-style-type: none"> 課題の個別化への素早い取組や、その工夫に感心している。 自転車のヘルメット着用は徹底できていると思われる。 マンネリ化しない安全指導の方策、又近隣の小・中・高校との連携した合同訓練の取組が素晴らしい。 熊谷市は災害の少ない地域ではあります。万が一に備え避難訓練などは引き続きしっかりと実施してほしい。 		
<ul style="list-style-type: none"> 校長先生のリーダーシップと指導により、職員の指導力がUPしていることがよくわかる。 明確な課題設定、その解決のための具体的な実践が素晴らしい。 各教室を巡回・拝見し、先生方の発問や板書、児童の発表の様子、ペア学習の協力性に感心させられる。 先生方の指導により学力も確実に伸びていると思われる。 読書の習慣が身に付くような指導にも力を入れていただきたい。 		
<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の中で、又日々の生活の中で、又日々の友達との関係の中で、つまり見える場面を作り、見逃さず粘り強く根気よく指導している様子がよくわかる。 子どもたちは静かに落ち着いた様子で授業を受けている。また姿勢も良い。 教室内での掲示物やランドセルなど荷物の整理整頓も非常に良くできている。 挨拶のできる子になるように家庭と協力して指導をお願いしたい。 		
<ul style="list-style-type: none"> 学級懇談会には参加してもらいますが、欠席してしまった方へのフォローもしっかりと行ってほしい。 PTAやおやじの会などの活動も活発で保護者と地域、学校との連携も取れている。 恵まれた文化的環境とはいえ、それを最大限に活かし活用する手立て(おそらく見えない所で沢山の連携や調整が行われていると思います)が鮮やかである。先進的な取組だけにその苦勞が偲ばれる。 		